



水産情報速報版

H17.10.28 1166

静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行 = 指導部 漁政課
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

1. 平成17年度(第44回)県農林水産業功労者表彰 漁業関係者3名が受賞

県、農林水産業の関係団体でつくる静岡県農林水産業振興会(会長石川嘉延知事)では、10月7日県農林水産業功労者表彰選考会を開催し、表彰受章者38名を決定しました。

漁業関係では、本会並びに県信漁連が推薦した根崎梓氏(伊東市漁協長)、近藤大治郎氏(県無線漁協長)、吉村長治氏(前御前崎漁協長)が、漁協系統組織の強化や漁船の安全確保の推進と、本県漁業の振興発展に貢献した功績が認められ、表彰の栄誉に輝きました。

ここに受賞された皆様に心よりお喜び申し上げますとともに、今後の一層のご活躍をご期待申し上げます。

なお、表彰式は来る11月4日(金)県庁において執り行われます。

2. 本会第5回理事会開催 平成17年度上半期の事業状況等を報告

本会では、去る10月20日第5回理事会を開催し、平成17年度上半期の事業状況、収支報告及び全漁連監査報告に対する回答等の審議を行い、いずれの議案も承認を得ました。

当期の事業内容は、引き続き石油価格高騰の影響により価格競争等で厳しい事業展開を強いられ、主幹となる石油購買取扱高は金額では増加したものの数量が減少し、漁業資材も一般機器類の大口取引が成約できず取扱高が計画・前年比共に大幅に減少しました。また販売事業は、買取販売が概ね計画どおり前年並みの取扱で、浜名湖産アサリの集出荷事業は、販売先の見直しやパック製品への転換等、採算性を重視した中での事業転換により収支の改善が図られ、また受託販売では、健康食品として天草価格が急上昇し、一方では土肥漁協が新たに共販事業に参加したことにより、取扱高は計画・前年比共に大きく伸長しました。

その結果、経済事業総取扱高は4,445百万円(計画比64%、前年比112%、以下同じ。)、事業総利益238百万円(54%、102%)と前年並み粗利益を何とか確保し、人件費を始め管理経費の削減に努めたことで事業利益は前年を上回る22百万円の実績を挙げることができました。しかしながら事業外の収支面においては、これまでの土地建物など不動産収入が、昨年来の水産団体を始めとする入居者の転居により収支バランスが大きく崩れ、さらに収入減に繋がる懸案事項を抱えている中で、経常利益36百万円(132%、95%)を計上することができましたが、下半期の収支予測は一段と厳しくなるものと思われま

す。非経済事業の指導事業では、最重点施策である県漁協基盤強化の方針に則り、伊豆地域を重点に緊急を要する個別漁協の経営改善計画の策定に向けて、県及び漁協系統機関との連携の下で精力的に改善指導に取り組んだほか、組合長会議の開催、キンメダイ・トラフグの資源回復計画の実践作業やアワビのエコラベル事業の実施、「ふじのくにしずおかシーフードフェア」の開催準備、監査事業等の実施報告がなされました。

また、温水利用委託事業では、本年4月より新たに沼津分場を県から受託した中で、御

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

前崎の新施設と共に人員増による新体制の下で、計画に沿った施設利用と各種種苗の生産が病気等の発生も無く順調に稼働し、特にクエの種苗生産が好調である旨の報告がなされ、上半期の事業報告及び仮決算のいずれも承認を得ました。

次に、去る7月実施の全漁連監査報告書に対する回答については、各種規程類の見直し、取引先に対する与信限度管理の徹底等、昨今の漁業・経済社会の環境変化に対応した改善事項の指摘に対し、夫々の改善方策を示して了承を得、続いて本会コンピュータ入替に伴う新システム導入に関する事項及び追加議案として本会理事との経済事業取引に係る売買契約について諮り、夫々承認を得ました。

また、報告事項としては「ふじのくにしずおかシーフードフェア」の開催案内、表彰関係として全漁連漁協運動功労者表彰(既報済)及び静岡県農林水産業功労者表彰(別掲)の受賞者について報告がなされました。

3. 平成17年度天草共販入札会終了

本会の平成17年度天草共販事業は、去る10月26日開催の第6回入札会をもって終了しました。なお、今回の入札結果及び本年度の取扱累計は次のとおりです。

第6回：数量 = 14,951kg(608本)、取扱金額 = 35,882千円、平均単価 = 23,999円(10kg当たり)、最高入札価格：産地 = 田牛・銘柄 = あらめ 32,580千円(10kg当たり)

この結果、第6回までの取扱累計は、数量91,682kg、本数3,681本(対前年比：42,562kg、1,704本増)、取扱金額202,720千円(同134,149千円増)、平均単価22,111円(同8,152円高)となり、不漁だった昨年を大きく上回りました。

4. 平成17年サクラエビ秋漁の見通し等を発表

桜えび漁業組合では10月20、21日の両日、平成17年秋漁を前に、桜えび漁業生産技術研修会を大井川町漁協、由比港漁協において開催しました。

研修会では、県水産試験場田中寿臣主任より、平成17年春漁の経過、主産卵場における卵・幼生の出現状況と水温環境、さらには平成17年秋漁の見通しと現在の資源状況について説明が行なわれました。

それによると、県内の春の漁獲量は1,268ト(前年：1,526ト)、平均単価は2,728円/kgで、魚体は平均36.1mmと平成15、16年と比べ若干小さくなった等報告がありました。

また秋漁の見通しでは、漁期前調査などにより、今年の親エビ(1歳)の残存量は昨年より多く、体長も少し大きいとしています。今年生まれで漁獲の主体となる仔エビ(当歳)は、昨年より資源密度は少し大きく、体長についても少し大きいとなっています。

5. 諸会議・日程(11月1日(火)～11月14日(月))

- 既報分省略 -

11月 2日(水) 県漁業共済組合 = 監事会 (県水産会館)

11月 4日(金) 県JF共済推進本部 = 榛原地区担当者会 (丸榛吉田うなぎ漁協)

11月 8日(火) 県漁連 = ふじのくにしずおかシーフードフェア (東京)

11月 9日(水) 県漁船保険組合 = 理事会 (県水産会館)

11月10日(木) 県漁連 = 県漁協組合長会議実行委員会 (")

" 共水連 = 普及研究会 (")

" 県漁業共済組合 = 理事会 (")

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう